広報こすど
発行所
小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
編集発行印刷人　矢部藤三郎

「おくれるな
後の仕事が
まつている」
新生活入選標語

“目”と“耳”を……
……生活に活用しよう

先日、ある人々の話し合いの中から、ふとこんなことばを耳にした。

「役場当局や議会は、どうもわれわれ町民を群集として扱いやすい傾向がある。税金を払つて住居している以上、どんな人でも町民であるから、もつとわれわれの意見を尊重してもらいたい」というようなことであつた。

その人々の話の半ばで席を立ち去り、何の話の内容かは判らなかつたが、そのことばには、嘘やこじつけなどとは考えられない場面であつた。あるいは、場合によつてはそのことばがほんとうであろうかとの推測が強くはたらいたのだが、たとえ町当局や議会を悪い意味で行つたのではないまでも、そういうように解釈(？)されたのだとすると、大いに反省しなければなるまい。

それで、政治を行うには、まず「世論を尊重せよ」と絶唱したい。（政治などということばは、お偉方の言うことで、私などの論ずる幕ではないが、ここで字句の引用だけはお許しを願つておこう。）

政治の施行については世論を聴こう、といつてみても、実に間口の広い話ではあるが、政治は国民の世論に耳を傾け、その世論の反映でなければならない、ということは言をまつまでもない。

一口に政治と言つても国の政治から県政、市町村行政といつたぐあいに一連の政治面があるけれども、すべて民意の反映でなければならない。それで、政治を行うに、第一に取り上げなければならないものは、なんといつても世論である。その世論を基礎として国民の福利増進をはからなければならないものと思う。

ところで、世論というものは何も政治ばかりではない。たとえば、メーカーにしても各家庭の器具や食料品などのメーカーで器具のデザインや性能から食料品の味、容器の包装のデザインのはてまで世人の好みに適しているかどうかということを綿密に調査(世論調査)してから大量生産にかかつたなら、必ず商品は確実に売れて行くであろう。

こうしたことは、消費者を王様とした商店の世論調査といつてよかろう。

さて、それでは眼を転じて町の行政面に焦点を合わせてみると、当町においてはつきりした政党色を打ち出している面はないが、一応政党に所属している人が少なくない。これら政党に籍をおいている建前から、何かしら政党の政策といつたものが打ち出され、それを世論の反映としているが、これは代議政治ということから当然である。そして大がいのことは、この精神をもつて進行されても差しつかえないものとは思うが、小自治体の当町においては、少なくとも町民の経済関係や安危にかゝわるような重大なことについては、正確な町民の世論を確かめる手段を別に講ずる必要があるのではなかろうかと思われるふしが多分にある。もちろん町の関係者は行政面では血のにじむような合理化対策を推進しているが、さらに一段の努力を要すると思う。

近年、政府にも中央調査室といつた調査機関ができ、活発に世論調査を行つているが、当町もこれにならつて町民を王様とした世論調査を盛り上げて、民意に添つた町政を執行し、あまねく町民大衆の仕合わせのために努力しなければならないと思う。

世論調査の結果、時の町政の方針とはかなり違つたものが現われるかも知れない。その際は謙虚に町民の声を検討し、これを尊重して民意にこたえるだけの寛容さがあつてこそ、町政を握るもののつとめを完遂することがはじめて可能となろうと思うが、どうであろうか―。

……火事の季節……
守ろう火気を

そろそろ火災シーズンに入るときであり一般家庭では火鉢やコタツを使うようになつた。しかし晴れた日などはまだ気温も上がるときがあるので、ともかく火の始末をウツカリしやすい。それがしばしば「火事」のモトになるが、工場や学校集会所などもこの季節は特に用心する必要があろう。

火の始末は日につく処はまだ用心し易いが日につかない屋内配線等に故障がないかといつたことも改めてみる必要があろう。消防署なども冬を迎えて各戸の火の元を廻り手ぬかりはないかどうかの査察を行つてもよいことであろう。又家を留守にして用足しに外出するときなど隣同志でお互に用心し合うのも励行したいものである。

なんといつても火災ほど馬鹿々々しいものはない。泥棒に入られたとしてもその被害など知れたものであるけれども、火事ばかりは全財産を灰にしてしまうから本当に恐ろしいことである。火災保険に入つて置くことも大切であるが、仮に保険金で全額をカバーできたとしても隣近所や世間に迷惑をかける責任はそれこそ重大である。当地にも近年火事はあつたが大事に立ち至らなかつたことは幸であつた。近年町役場や公民館又は公会堂などに公共の防火施設はしてあるようだが一般家庭でもバケツ一杯の水とか不時の災難に備えて手取り早く使用できる化学消火筒など用意しておくことも万一の備えに必要である。

ところで全町を眺めるとき一旦火急の場合に消防自動車はおろか小型自動車ポンプでも通れない狭道や悪道、夏になるとカやハエの発生源、自動車ポンプで二、三分放水すればたちまち水が無くなるような防火用貯水池が処々に見受けられる。とかくこうした方面には予算をケチケチして整備が遅れているが焼けたあとの大きな損害住民の迷惑を考えたならば防火消火の設備につかう金などは知れたものであろう。こうした設備を徹底的に充実することは近き将来当町が都市計画に基き近代都市を創ろうという大事業につながるものだと思う。

何はともあれ昔の諺の如く転ばぬ先の杖で焼いて消火に努めるよりは焼かぬ前の防備と用心が先決であろう。

（T•T）

年始ぶるまい廃止に意見一致
－新生活推進協議会－

当町新生活推進協議会ではこのほど次のような趣旨で「年始ぶるまいを廃止しようではないか」という意見の一致を見て、地域住民の理解、協力のもとで推進を計ることになつた。

趣旨の概要

一、従来農村部では年始ぶるまいを各戸で行つているがそのため一家の主人は酒を飲みつゞけて健康を害し、主婦は来客の接待に忙殺され正月中映画の一本も見られず過労にあえぎその上多額の失費により家計上の苦しさを増すことになる。

この生活上の無駄を省くため全町的申し合わせによつてこれを廃止した方がよい。但し他市町村の親類、縁者まで招いたり招かれたりすることまで廃するようにとの意味ではない。

二、今迄の年始ぶるまいのかわりに地域ごとに新年祝賀会（仮称）といつたような催しをなるべく少ない会費で、しかも新年のすがすがしい気分のもとで多数の参加を得て催した方がよい。

以上

疾病分類表

自 昭和34年4月
至 昭和35年3月

外来患者

内科		内科	
(1) 呼吸器疾患	1,007	(6) 泌尿器疾患	103
肺結核	78	腎炎	58
喘息	22	膀胱炎	44
肺癌	1	その他	1
その他	906	(7) 寄生虫症疾患	93
(2) 消化器疾患	753	(8) 肝臓疾患	52
胃十二指腸潰瘍	36	肝炎	18
胃下垂	36	その他	34
胃癌	10	(9) 伝染病疾患	38
その他	671	(10) 血液病疾患	18
(3) 神経系疾患	443	(11) 中毒疾患	11
(4) 循環器疾患	218	(12) その他	
高血圧症	122		
心臓弁膜症	20		
その他	76		
(5) 栄養障害疾患	171		
脚気	147		
糖尿病	1		
その他	23		

外科	
(1) 皮ふ疾患	592
(2) 外傷	583
(3) 腫瘍	170
(4) 腹部疾患	170
(5) 虫垂炎	147
(6) 瘭疽	125
(7) 肛門疾患	35
(8) 眼疾患	33
(9) 先天性腹壁奇型	28
(10) 火傷	24
(11) 癌病患	9
(12) 脊椎カリエス	2
(13) その他	

産婦人科	
(1) 妊娠腎及妊娠悪阻	221
(2) 膣炎	154
(3) 流早産徴候	95
(4) 子宮内膜炎及附属器炎	90
(5) 出血性メトリパチー	41
(6) 子宮筋腫	29
(7) 子宮癌	6
(8) その他	

耳鼻咽喉科	
(1) 扁桃腺炎	170
(2) 外耳道炎	166
(3) 併合性副鼻胴炎	161
(4) 鼻炎	109
(5) 急性中耳炎	90
(6) 慢性中耳炎	68
(7) アデノイド	30
(8) その他	

入院患者

内科		内科	
(1) 伝染病疾患	45	(6) 肝臓疾患	9
赤痢	44	肝炎	8
その他	1	その他	1
(2) 呼吸器疾患	35	(7) 神経系疾患	5
流感性肺炎	9	(8) 血液病疾患	4
肺結核	7	(9) 薬物中毒疾患	3
気管支肺炎	6	(10) 服毒	2
その他	13	(11) 晩期梅毒	1
(3) 消化器疾患	16	(12) 胃胸腔内ヘルニヤ	1
急性胃腸炎	9	(13) 脊髄性小児麻痺	1
消化不良症	3	(14) その他	
その他	4		
(4) 泌尿器疾患	20		
腎炎	7		
糖尿病	3		
その他	10		
(5) 循環器疾患	11		
高血圧症	7		
心臓病	3		
その他	1		

外科	
(1) 腹部疾患	156
虫垂炎	131
腸管癒着症	8
穿孔性腹膜炎	8
腸閉塞	4
胃潰瘍	3
腸潰瘍	2
(2) 外傷	32
(3) 先天性腹壁奇型	17
(4) 肛門疾患	14
痔瘻	5
痔核	4
その他	5
(5) 癌疾患	9
胃癌	3
直腸癌	2
その他	4
(6) その他	

産婦人科	
(1) 分娩	83
(2) 妊娠中絶	18
(3) 子宮筋腫	17
(4) 帝王切開	6
(5) 妊娠腎及妊娠悪阻	6
(6) 子宮脱	3
(7) 子宮癌	2
(8) その他	

耳鼻咽喉科	
(1) 併合性副鼻胴炎	29
(2) 慢性扁桃腺炎	5
(3) 鼻牛彎曲症	3
(4) 汎副鼻胴炎	2
(5) 耳管カタル	1
(6) その他	

患者はこんなに
＝県立小須戸病院＝

みなさん方の御要望により本院が開設されてから早くも一年有半の歳月を経過した。ここで昭和三十四年度（自三十四年四月〜至三十五年三月）に当院の外来を訪れた患者さん及び、入院された患者さんを病気の種類によつて大別してみましたのでお知らせ致します。

尚これだけで当地域に多い病気が何であるかを確定する訳には行きませんが、大体の傾向はつかむ事ができるように考えられます。（別表参照）

以上の表より見て食物に関係した病気が割合多いことと、病気を放置しておいて慢性になつてしまつたり、悪くなつて手のつけようがなく早死することがあるように感じますので、今後みなさんにお願い致したい事は、食生活の改善と早期受診と言うことであります。みなさん方の御協力によつて病人の少ないより健康な郷土を作り上げたいと考えます。

おわび

十月三十一日発行の広報こすどに小須戸町財政事情の公表中昭和三十四年度一般会計グラフと、三十五年度一般会計グラフとが入れ変わつておりましたので、訂正と共におわび致します。

なぎさ

もう少し早目に

（世津 勝）

来年から中学校では生徒が三学級はどふえるばかりでなく、教育の内容が改められるということで、どうしても教室が足りないそうだが、どうせ建て増しをしなくてはならないものなら、なんとか都合して、新学年に間に合わせることができぬものだろうか。

これはしろうと考えかも知れないが、来年の二学期か三学期になれば使用できるように仕事が運ぶのなら、もう少し早目に取りかかれば、新学期には十分間に合うような気がするのだ。

町の財政上、絶対に建てる見通しがないというのならばともかく。年次計画でやろうという腹がまえさえできていれば、経済的な問題は町民全体解を深め、協力態勢を強の理く盛り上げる方法をおし進めさえすれば、存外、「案ずるより生むが易し」ということになるのではなかろうか。

その点、これまでも、政治的なふくみがあるとかで、全町民に対する啓蒙宣伝の不足から、一部の理解不足の人達から反対され、せつかくりつぱな仕事を計画実施しながらも、後になつて当局者がかけ回つた末、ようやく説得した事実もいく度かあつたはずー。

「町の発展は教育にある」とはすべての人の口にするところではあるが、経済的な負担になると誰しも引つ込みがちになるのは止むを得ない。しかし、ほんとうに理解することによつて、その負担が、負担と感じなくなるような力強い協力態勢をつくるのは現在の小須戸町において、だれがなすべきことなのであろうか？

すばらしかった財宝展

ことしの文化祭を顧みて

第三会場（山の手）にもっと独自性を

何はともあれ、当町、一年間の成果を示す文化祭も無事におわり、良きにつけ、悪しきにつけ、いろ〳〵と感想を持たれた方も多いと思うが、とかく文化祭ゆきづまり論も出ているおりから、当事として、各方面に、御意見をおききした結果、四十通のアンケート中、わずか数氏ながら熱心な御意見を得たので、ここにまとめてみた。

何といっても、この町の文化祭であり、私達の文化祭である以上、もっと多くの人達の意見をあつめ、より意義のある、本当に皆のまちこがれる文化祭へとつみあげていきたいものである。

おききした御意見は、特に質問の形にしなかったが、たゞ今年、はじめて、矢代田を第三会場として、同じ日に行った事については、御意見があれば、つけ加えてもらうことにした。

①さてその矢代田については、既に皆さんもよく御承知の通り、今までは、山の手は、日をずらして別に文化祭をひらいていたのであるが、今年は、同じ町内の文化祭でもあるし、というわけで、矢代田小学校を第三会場として、全町同じ日に文化祭を開いたわけである。これについては

◎理想的には、第三会場として同時に行うことは望ましい形であるが、地域により環境に大きなちがいのあることを考えると、まだ〳〵時期が早いのではないか。

特に町部よりの協力がのぞまれる。

◎山の手地区の皆さんの考えていたことと、町部の皆さんのうけとり方に相当なくい違いが生じて、まことに不快な思いをしている人達が相当いるのではないか。これでは、当町の発展と文化活動の面で、大きなマイナスといわねばなるまい。

◎たゞ、第三会場という名だけでなく、もっと実のある会場にすべく、本館の配慮がほしかった。

◎明かるい町建設という目標で統一してやったのだが、実質的にはむしろ対立感を深めた感がある。

◎町部中心的な考え方を改めて、お互にゆずり合う心がなければ、文化祭はむしろマイナスである。

◎小須戸小、中学校での盛りだくさんの行事の一部を第三会場へとの配慮が願いたい。

◎文化祭当日は、貸切りバス位、用意して、町から山の手、山の手から町へという位の予算措置が必要である。

◎来年も統一文化祭を行う場合は、山の手分館に対して、独自な計画実施ができるよう、予算計上を願いたい。

②次にその他の御意見をあげてみると

◎文化財宝の陳列は非常に好評であった。

◎町産の商品の紹介陳列特に食品の試食、特売等は意義がある。

◎小須戸物産品をもっと巾をひろげて色々と陳列して頂きたい。

◎メリヤス、織物製品の陳列場を明かるくして頂きたい。

◎製造工場の名前をつけていたゞきたい。できれば金額もつけて頂きたい。

◎田中工場の陳列会場の漬物、みその売場には、誰にも見える上の方に金額を書いておいてもらいたい。番人は二人位必要と思った。

◎農産物品評会は継続した方がよい。あわせて、家畜（豚、緬羊、鶏）の共進会の希望もある。

◎社会教育法に基く成人教育の為の文化祭であるから、みんなが商人気を止めて、レクリエーション的な考え方でやるべきである。

◎PTAも社会教育関係の団体であるから、文化祭の件のみでなく、町社会教育関係の事に発言の機会を与えると共に活動資金の予算化が必要である。

◎当町教育関係の年代が古過ぎて理解がないことも、文化祭等に大きく影響があると思う。

◎全体評価委員は、極力出席することが望ましい。本年度は低調であった。

以上いずれも傾聴に価する御意見であり、また、これをよまれて、更に御意見のある方も多いと思う。とにかく、有意義な文化祭にする為には、より多く意見をあつめることこそ第一であり、みんなの広場である公報を通して、更に多くの投稿をのぞみたい。

おめでとう　みなさん

文化祭入選者

高校入賞者

町長賞	井上美佐
教育員賞	須藤博夫
〃	笠原ヨイ
公民館賞	竹内哲雄
	外十九名

中学校入賞者

町長賞	小柳稔子
〃	伊藤定則
教育員賞	中山桂子
〃	島倉紀之
〃	佐藤潔
〃	羽田野ミサイ
〃	高橋裕治
金賞	二百十八名

農産物入賞者

町長賞	武田一弥
弐等賞	吉井孝一
〃	高山豊作
〃	高山泰樹
〃	高山寅松
〃	吉井正平
〃	吉井考治
弐等賞	城丸三太郎
〃	高山与三郎
〃	丸山基
〃	吉井マス子
〃	高山太郎
〃	高山真知子
〃	長沢喜一郎
〃	加藤米二
〃	加藤りう
〃	白井栄吉
〃	吉井清太郎
参等賞	十五名

余技作品入賞者

町長賞	清水忠夫
入選	村山七郎
〃	児玉博一
〃	武田弘
〃	田巻一男
〃	斎藤敏夫
〃	田中カツ子
〃	浅見幸子
〃	佐藤義雄

菊花展入賞者

町長賞	原喜一
議長賞	河内荘一郎
局長賞	逵間健吾
一等厚物	佐藤徳之助
一等管物	臼井庄次
一等数咲	真保佐一
二等	馬場真衛　外五名
三等	臼井庄次　外十名

俳句入賞者

一等	森田櫻夫
二等	田中芳人
三〃	加藤山葵
〃	内山越楼
〃	矢部旺資
〃	八木蜂子

県下柔剣道大会

三日　小学校体育館

柔道の部

一位	小須戸柔剣ク
二位	明訓高校
三位	新津高校A

少年団体

一位	加茂若宮中
二位	安田中
三位	白根中
〃	新津三中

個人二段以上

一位	中村武雄
二位	高塚祐
三位	吉崎英喜

個人初段以下

一位	菅原勝範
二位	真柄浩
三位	和田進

少年個人

一位	難波弘策
二位	伊藤敏男
三位	小林四郎

剣道の部

一般団体

一位	小須戸柔剣ク
二位	新潟商業
三位	明訓高校

少年団体

一位	木戸クラブ
二位	小合中
三位	金津中

個人初段以下

一位	竹田喜一郎
二位	片野孝男
三位	斎藤行雄

少年個人

一位	金谷忠
二位	伊藤章
三位	吉井英雄

町民卓球大会

三日　中学校体育館

男子団体

一位	鵜出古木
二位	四番町
三位	一番町

女子団体

一位	田中雨具店
二位	オール田中
三位	北越撚織

男子個人A組

一位	武田勇二
二位	清水忠夫
三位	児玉忠夫

男子個人B組

一位	川瀬福松
二位	本合一夫
三位	佐藤健一

女子個人

一位	小島芳子
二位	古木マサ子
三位	高橋直子

職場野球大会

三日　中学グランド

一位	オール田中
二位	小須戸家具

尚二日には少年の野球大会が開かれ、秋晴の下で元民な少年達が一日を楽しんだ。

小須戸マラソン大会

三日　小須戸一周

一位	鎌倉チーム
二位	天ケ沢
三位	一番町

尚同じ日の三日定時制高校課程地区一周駅伝大会が開かれたが、善戦の結果次の通り入賞が決った。

一位	白根分校
二位	小須戸分校
三位	両川分校

各方面より感謝される

婦人会の寄附金

十一月二日、三日の公民館主催の文化祭に、小須戸連合婦人会では例年のように食堂と売店を開き協力一致であげた収益に寄附金は次の通りである。

総売上げ値	一九三、二〇三円
純益	七八、六五八円
寄附	
中学校	一〇、〇〇〇円
小学校	一〇、〇〇〇円
矢代田小学校	五、〇〇〇円
公民館	三、〇〇〇円
新津高校小須戸分校	三、〇〇〇円
柔剣道部	一、〇〇〇円

矢部さん優等賞

新潟の菊花品評会に

十月二十八日より十一月三日まで開催された、新潟浦浜遊園菊花品評会に本町矢部藤三郎氏は日頃の努力がむくわれ地元新潟西蒲新津、白根市等八百数十点の出品の中から優等に入賞された。

お互の協力とはげましで
希望ある生活をきづく

ふたば会

グループめぐり（その五）

戦争の痛手を骨髄までしみこませられ杖とも柱とも頼る人を失いその上路頭に迷った切なさは我々未亡人ばかりでもあるまいが、幾年たっても新たなる記憶としてよみがえってくる。

夫や子をおくる人たちが“後の事は心配するな”とはげまして戦地におくったその言葉に果して相違はなかったろうか。

此の世に人として生きることはバカであろうとチョンであろうと平等の権利であるのだが、乳のみ児や病人をかかえて女手一つの暮しには、その足跡に血がにじんでいた

寒ければ寒いように、あつければあついように寸間も頭からはなれないのは、まだいたけな子供たちのことである。人なみに着せたい、喰べさせたい、仂いても仂いても追つかない暗い気持はいつ拭い去れるやら果てもない。

こんな人たちは数えきれぬ程いる。この人たちが心を合わせて少しでもプラスになる暮らしができたならばと、話し合ってできたのが現在の「ふたば会」（この名はずっと後になってつけたものだが）である。

当時十一、二名の未亡人だけであったのが、加入させてほしいという希望者がいて、今はミセスもおり二十二名のグループである。

目的は少しでも希望のもてる暮らしがしたいことである。

それにはグループを中心にお互の心のなやみを打ちあけ、助け合い、ささえ合いながらいくことであると。

月一回気がねのいらない公民館に集まることにして先ず話し合いにでたのは一人百七拾円の持ち寄りで、百円はその月どうしても必要という人から順々に借り合って行く。五〇円はさゝやかではあるがなにかのたしの貯金である。二〇円は当日の茶菓子代であり、季節によってアイスクリーンになり、グループのおかげで気がねなしに一人で一杯のめるというふうで、この方法は一ケ年で一めぐりする。

また次の話し合いにでたのが着類のことである。毛糸は我々にはぜいたく品である。だがセーター一枚くらいはさむさにちゞこまっている子供に人なみに着せてやりたい、そしたらどんなによろこぶだろうと異口同音である。話はまとまり、業者と話し合って一ポンドでも二ポンドでも月二百円の分割払でかならず月月支払うことときまった。

大っぴらに借りて着せたり着られることはみんなグループのおかげと、月一回の集まりの時にその二百円を持ち寄り全体責任のような心持で支払いつゝ十四年後の今もなお続いている。

世の中の荒波や風雪にたえながら、ふまれてもけられても野の草のそれの如く人として生きる平等の権利を主張しながらかんとうしている。幾人かの子供をかかえて、その日その日を過ごす苦しさは筆などにはとても表わせない。

時代はおかまいなしに進んでいく。人称して日進月歩という。

時代に生きる我々は文化の進むに平行していきたいのは人なみである。

“合理的”という言葉をいたるところにきく。グループの会合にもきく。合理的な暮らしにはほしいものばかりである。先ず台所に頭をめぐらすと、スターのように出まわっている石油コンロにつき当たる。

今までのカマドにくらべて便利さが瞬間的に頭をかすめるだが一台四千円である。四千円というとみんながだまってしまう。しかしなんとかして手に入れたいと思うと、かんとう精神がムラムラとわいてきて、三百円分割払に業者と話し合うことにきめる。業者では、三ケ月か半年はあるが十四ケ月は困るとのことだったがお互に歩みより遂に三百五拾円払に承知させ、希望者は買うことにした。

淋しい幾夜をだいてねた子供たちはみんな大きくなり一ッふとんにというわけにはいかなくなった。夜具が一組も二組も必要になってきた。これをととのえるには大変の金である、でもどうしても必要である。又綿やさんと交渉してこれも三百円払で話をつけた。これが終れば毛布と話がでている。

時には又新聞や図書からある文をばつすいしてみんなで読み合い語り合うこともする。学ぶ気で読めば短い文からでもなにものかがちえづけられるから。

だし合う百円ずつも二百円となって、借りられる金額も二千円余だから大変役立っている。一年間にみんなにゆき渡るように一回二人が借りられる方法にしている。

一年間でたまった六百円は、一日なり半日なりつかれた身体を温泉につかるのに使われる事もある。

暗雲消え去らぬ中にも子供を育てなければならぬ親としての責任は母なればこそかくも強いのだと思う。

誕生して十年余のこのグループの人たちの顔は明かるい。一人でできぬことが幾人かのより合った力でお互にはげましながら暮らしを明かるく持ちつゞけていく「ふたば会」である。

県弁論大会に

定校の井上美佐さん

毎年行われる分校対抗の弁論大会が去る十一月五日新津高校にて開催され、小須戸分校より参加した四年生の井上美佐さんの「苦難を越えて」が優勝し、十一月十三日会場も同じ新津高校で下越地区の大会に出場、第三位に入賞し、十二月四日柿崎会場で行われる県大会に出場することになった。

十一月　購入図書

◇夜明け前（下）　島崎藤村
◇サーカスの風　戸川幸夫
◇高校全員入学制　栗津竜智　編
◇女教師　望月一宏
◇アスファルト、ジャングル　五味川純平
◇零歳から百歳まで　読売新聞社　編
◇青い化粧　舟橋聖一
◇情熱の市　平林たい子
◇非常階段　日影丈吉
◇死神の地図　島田一男
◇中南米を行く　NHK特別報道班
◇新、水滸伝（第一巻）　吉川英治
◇どくとるマンボウ航海記　北杜夫
◇七時間半　獅子文六
◇箱入亭主　源氏鶏太
◇銀座の柳と青年と　鹿島孝二
◇老舗は語る　実業之日本社　編
◇影の傀儡師　陣出達朗
◇応仁の乱　池波正太郎
◇野火の鴉　子母沢寛
◇天狗往来　富田常雄
◇源太郎船（下）　川口松太郎
◇我に益あり　西村伊作
◇スープの本　鈴木伝
村上信夫
◇霧雨の夜の男　牛島春子
◇告発（犯人は別にいる）　鈴木忠五
正木ひろし
◇キリストの石　九鬼紫郎
◇変貌する東南アジア　松原俊朗

おくやみ

自十一月一日
至十一月三十日

佐藤晶坪	五番町
小林セツ	横町
大森タカ	矢代田
城丸美よ	天ケ沢
山崎ハツエ	竜玄
山崎昌子	〃
山崎高広	〃
加藤シモ	下興野
長谷川ミヨ	諏訪町
笠原末松	東町

勤労感謝祭句会

小須戸町俳句同好会

小春日や通さぬ橋を見て廻る　庄三郎
山嶺の雲いろどりて落葉焚く　越楼
駅へ着く空暮れていて雁の声　紫川
選挙戦終り静かに籍を置く　香月
落葉焚く枯菊をもて火を育て　竜朗
山羊遊ぶ野は一面の草紅葉　一陽
夜まわりの声冴え返る霜夜哉　芳人
船着場芦刈鎌を研ぐ女　山葵
港の灯かすかに流る冬木立　旺資
諸蔓を掛け干す軒や搾乳女　水月
一片の柚子浮び居て卓なごむ　杏水
掛替の橋渡り初め秋晴るゝ　流水